



センター長	学務部長	教務課長	副課長	係長	係員
					

出張報告書

平成 22 年 9 月 13 日

高等教育開発センター長 様

(部局等) 佐賀大学 文化教育学部

(官 職) 教授

(氏 名) 山下 宗利



このたび出張しましたので、下記のとおり復命します。

出張期間	平成22年 9月 10日(金)
出張先	ホテルグランヴィア京都 京都市下京区
出張内容	ポートフォリオSNSの先端事例セミナー参加
出張内容の概要	<p>鹿毛雅治氏(慶応義塾大学教職課程センター)による「ポートフォリオを活かした履修カルテ」がテーマであり、現在進行中の実践例の紹介とともに、鹿毛氏との質疑応答がなされた。</p> <p>慶応大学の教員養成(開放性、専任教員7名)においては、履修カルテの積極的な導入を図っている。とりわけ「教職実践演習」では、学生自身が教職に適しているかを自己判断することが求められており、形だけのカルテ(評価)に終わるのではなく、意味のある実践に向けた評価とすることが本来の目標であり、このシステムが巧く働いていることが紹介された。</p> <p>慶応の実践では、ネットワークの機能をフルに活用したものとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のレポート提出をネットワーク上で行い、学生同士による相互閲覧を可能にしている。 その後のディスカッションで効果を発揮する。他の学生や教員間で相互閲覧し、コメント・評価する場ができ、学びの可視化につながる。 ・教育実習時に作成したノート、レポートをポートフォリオに蓄積する。 情報の蓄積により、自己評価(振り返り)が可能になる。 一般企業への就職後に教職に進路変更する場合に役立つ。後輩が参考にすることができる。 ・SNSを利用し、グループワークが活発化する。 ・OB、OGの参加により、現場の声を知ることができる。 <p>時間と空間を越えた機会の提供が学生のモチベーションアップにつながる。といった特色を有している。</p> <p>これにより、評価のためだけのツールではなく、教師:指導のツール、学生:学習のツールとなる。質疑応答ではセキュリティ、閲覧制限、学生の反応などが意見交換された。</p>